

2021年9月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

2021年4月27日に開催した2021年9月期 第2四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

◆デジタルマーケティング事業について

Q1. 足元のトレンド及び市場全体の成長率について

A1. 前期4Q、今期1Qではオンライン業種中心に需要を捉えられていたのに加え、今四半期においてはより幅広い業種におけるマーケティング需要を捉えることができた。これまでマーケティングへの予算投下に対して保守的だった顧客も含め、DX需要の増加が積み重なっている。市場成長率との比較でいうと、当社の成長率が市場全体を上回っていると認識している。

Q2. 対売上高収益率の低下について

A2. 季節性で売上高が伸びやすい時期でもあるが、大型案件の割合が高まると対売上高収益率が低下する傾向にあるため、その影響である。

◆メディアプラットフォーム事業について

Q3. 収益が伸び悩んだ背景について

A3. マンガコンテンツ事業においては直近にかけて課金収益が着実に増収しているものの、前期にあったタイアップ案件の反動減による影響が大きかった。その他の事業においては、まだ安定的な成長軌道ではないため、一時的に伸び悩んだ。

Q4. 費用が増加した背景について

A4. HRテクノロジーやスポーツ領域など、新たな事業セグメントへの拡張に関連した先行投資を中心に費用が増加している。

Q5. Pharmarket 売却による業績影響について

A5. 連結業績への影響は軽微である。当該子会社の売却後においても、既存事業の成長によりメディアプラットフォーム事業全体では増収となる見通しである。

Q6. 下期の見通しについて

A6. マンガコンテンツ事業においては、サブスクリプションを含むユーザ課金領域が順調に伸びているので、これをさらに加速させていく。また、中期経営方針にて示している通り、D2C 領域にも手ごたえを感じ始めており、季節性によって下期に強く伸びる事業もあるので、ここも伸ばしていきたい。

◆中期経営方針について

Q7. ローリングが前提ではあるが、3か年の予算計画について

A7. 足元の成長の背景でもある DX 需要の増加は一過性のものではないと認識しているため、ある程度の持続性を加味しながら来期、及び次の3か年の予算計画を立てていく。

◆その他

Q8. 決算賞与について

A8. 上期は数億円程度を見積計上している。下期においても、上期の計上額をやや上回る金額での見積計上を見込んでいる。

Q9. HR テクノロジー事業の進捗状況について

A9. 現状はプロダクトマーケットフィットの検証段階であり、今後、しかるべきタイミングで顧客への導入状況などをお伝えできればと考えている。